

之教、道鏡復喚清麻呂、募以大臣之位、先是路真人豐永爲道鏡之師、語清麻呂云、道鏡若登天位、吾以何面目可爲其臣、吾與二三子共爲今日之伯夷耳、清麻呂深然其言、常懷致命之志、往詣神宮、神託宣云々、清麻呂祈曰、今大神所教、是國家之大事也、託宣難信、願示神異、神卽忽然現形、其長三丈計、色如滿月、清麻呂消魂失度、不能仰見、於是神託宣、我國家君臣分定、而道鏡悖逆無道、輒望神器、是以神靈震怒、不聽其祈、汝歸如吾言、奏之、天之日嗣必續皇緒、汝勿懼道鏡之怨、吾必相濟、清麻呂歸來、奏如神教、天皇不忍誅爲因幡員外介、尋改姓名爲別部穢麻呂流、大隅國略。中寶龜元年、聖帝仁光踐祚、有勅入京、賜姓和氣朝臣、復本姓名略。下

〔十訓抄〕花山院御時、中納言義懷は外戚、權左中將惟成は近臣にて、をろく天下の權をとれり、然るを帝ひそかに内裏を出、花山に幸なる由を聞て、兩人追て參上の所に、帝已に比丘たり、惟成もとゞりをきる、又義懷が語て云、外戚として重くおはしつるに、外人となりて、今更に世に交らんみぐるしかるべし、早く出家すべしと、義懷此由を存とて、同出家す、人の教訓にてしたれば、いかゞと時の人思ひけるに、始終たうとくて、飯室に住てよまれける、  
みし人もわすれのみ行山里に心ながくもきたる春かな

〔太平記 三十五〕北野通夜物語事附青砥左衛門事

後ノ最勝園寺貞時モ、追先蹤又修行シ給シニ、其比久我内大臣通基仙洞ノ叡慮ニ違ヒ給テ、領家悉被沒收給シカバ、城南ノ茅宮ニ、閑寂ヲ耕テゾ、隱居シ給ヒケル、貞時斗藪ノ次デニ、彼故宮ノ有様ヲ見給テ、何ナル人ノ棲堀ニテカアルラント、事問給處ニ、諸大夫ト覺シキ人立出テ、シカジカトゾ答ヘケル、貞時具ニ聞テ、御罪科差タル事ニテモ候ハズ、其上大家ノ一跡、此時斷亡セン事、無勿體候、ナド關東様ヘハ、御歎候ハヌヤラント、此修行者申ケレバ、諸大夫サ候ヘバ、コソ、此御所ノ御様、昔ビレテ加様ノ事申セバ、云事ヤ可有、我身ノ無咎由ニ、關東ヘ歎カバ、仙洞ノ御誤ヲ舉ルニ